

声 明

並行在来線の『運賃水準の据え置き』を歓迎する

= えちごトキめき鉄道会社の決定にあたって =

10月31日、2015年春の北陸新幹線開業に伴いJRから経営分離される並行在来線を運営する第三セクター「えちごトキめき鉄道」は、県民・利用者の最も関心事であった運賃の値上げについて、「運賃水準を開業後5年間、現行のJR並みに据え置く」ことを決め、発表しました。

“孫・ひ孫の時代まで安心して乗れる並行在来線を！”を願い今日まで運動を続けてきた私たちは、「えちごトキめき鉄道」の決定について「地域に愛され、地域とともに、地域の未来を創ります」の経営理念の具体化の一步として歓迎します。

昨年8月、えちごトキめき鉄道の「運行の課題と方向性」等にかかわって、沿線住民を対象にアンケート調査を行い、1472人から回答（回収率29.44%）が寄せられました。

その結果、「運賃の1.6倍化」に対しては、73%の住民が反対として「現行通り」を希望していました。「下げて欲しい」の5%を合わせると78%の住民が運賃の値上げに反対しています。また、他社への乗り換えで発生する「初乗り運賃」についても91%の人が現行通りを願っています。

このアンケート調査結果をもとに、10月10日、新潟県に対して「えちごトキめき鉄道の運行計画見直し」の要請行動で、「運賃の値上げをしない。」よう強く要望してきたところです。

また、今年2月25日には、“暮らしと地域を支える鉄道の充実をめざす新潟県連絡会”は、「えちごトキめき鉄道・経営基本計画最終策定にむけて提言」を泉田県知事に提出し、その中でも、「JR現行運賃を維持する、とりわけ通学定期は現行水準を堅持する。」ことを強く求めてきました。

今回、このような私たちの要望の一つが組み入れられたことは大きな前進であります。同時に「開業後5年間」という期限が盛り込まれています。一人でも多くの地域住民の利用者を増やすことを経営の基本に据え、県及び沿線自治体が参画し、積極的な利用促進を図ることは当然ですが、将来にわたり安定的に維持・存続するには、国・JRの責任と役割を明確にした新たな仕組みづくりが必要となります。

私たちは、引き続き沿線住民・利用者みなさんと県民の意見・要望を大切に“孫・ひ孫の時代まで安全・安心して乗れる並行在来線を！”願い運動を継続・発展させていきます。

2013年11月4日

妙高と信越本線を考える会 代表 岡山 紘一郎
信越線と地域のあり方を考える直江津・頸城の会
代表 仲田 紀夫
大糸線・北陸線を守る会 代表 丸山 明三
在来線を守る三市連絡会 代表 尾崎 靖弘
暮らしと地域を支える鉄道の充実をめざす
新潟県連絡会 代表 佐藤 一弥
" 上石 昌彦
" 杉崎 雄喜